

前号で本年度の行事予定のご案内をさせて頂きましたが、7月の例会の日程を、27日(日)と間違えて記載しておりました。正しくは**29日(日)**です。
訂正申し上げます。

題材法話

東北の大震災から一年が経ちましたが、今なお大變な状況が続いており、復興までにはまだまだ時間が掛かりそうです。特に原発の問題については、これからどうすればいいか、道筋さえつかないまま、いまも進んでいきます。原発がとくに高い価値で、経済力が、電気が、危険である、認識しながら、先さ、経済的な潤いの方を、優先してしまつたことが、招いてしまつたの、ひとたび楽しいこと、便利なことを覚えてしまった、ならば、たとえそれが危険だ、と分かつていないのが人間で、か捨てきれないのが人間です。

○三毒の煩惱
 分の欲望を満足
 させることだけ
 に執着すること
 を一貪欲（とん



よく「貪る心」と呼びます。つまり、貪る心です。その「貪欲」を満たすために、自分の都合の悪いものを排除しようとする心、心を「瞋恚（しんに）」と呼びます。これは怒りの心です。怒り、その心、貪りの心、怒り、常に出でくるのが「愚痴」という心です。「愚痴」「貪欲」「瞋恚」の三つを「三毒」と呼び、そこから「煩惱」と呼ぶ、そこら、浄化する苦悩が生じ、それが浄化されるところに、安穩な世界が生まれるのだ、と仏教は説きます。

お念仏に出会えた私たち、浄土真宗の門徒にとりまして、煩惱「がただちに消える」とはありません。お念仏の教えは、私達がお浄土に生まれて仏様と成らせて頂く教えです。

まだ人間である、それ、煩惱がなくなる、とはならないのです。



○世の中安穩なれ
 私達のお念仏の教えでは、私達の欲はなんにも変わらな、けつしてそうではありませ、親鸞聖人は80歳の頃に書かれた生活の中で、念仏者の日常生活について、このように、なことを書かれています。

「もとは無明の酒に酔ひ、毒をのみ、好みめし、あうて候、毒をのみ、好みめし、あうて候、ひはるに、仏のちかひをき、ひもやうより、無明の酔ひ、め、三毒をもちしづつ、好ま、ずして、阿彌陀の薬を、つねに、好み、あうて候、おはし、あうて候、ぞかし、つまり、もとは酒に酔つ、ぱらつて、正体を失い、毒を、毒とも思われない、愚かな生、方を、して、いた、が、阿彌陀様の御名を称え、如来の大悲に呼び覚まされ、悲に生きた、は、う、になつた、は、あ、る、が、酔い、が、覚、め、始、め、



過ちと知らされ、三毒の煩惱も、少しずつではあるが、慎むようになって、み教えを聞くことが楽しくなつて、くるんだ」ということを、仰っています。

たしかに私自身を振り返つても、お念仏を聞かせて頂けたからといって、そんな立派な人間になつたとは、聞かせて頂いて、やはり、こ、少、し、で、も、有、り、難、し、一、お、か、げ、さ、ま、で、と、の、心、が、育、て、ら、れ、て、い、る、の、か、な、と、思、う、こ、と、で、す。

このように考えますと、原発の問題を始め現代社会の問題を、一気に変えることなどは、なかなか難しい、思、い、が、致、し、ま、す、が、現、代、社、会、が、酔、い、か、ら、醒、め、少、し、で、も、安、穩、な、社、会、が、築、か、れ、る、た、め、に、は、お、念、仏、の、繁、盛、こ、そ、が、大、切、で、は、な、い、か、と、思、う、こ、と、で、あ、り、ま、す。

お彼岸法要
 住職法話より

